

文化



©SIAE,Roma & JASP AR,Tokyo,2012 D0093

という見方もある。1911年この街で夢を咲かせよと人生を賭した芸術家たち。彼らの力を得、もつとも大輪の花を咲かせたのは、パリそのものだ。たかもかもしれない。(1916年、油彩・カンパ17と堅牢なス、107×74)

た。77年に仲間と漁村計画研究所を設立、全国の漁村環境整備を進めながら、海と共に暮らし、その恵みを得ながら形作られた島国・日本の文化を追い続けた。

三陸沿岸の資料も「著述をまとめた本を編集してほしい」というのが早大の後輩である私への遺言だった。膨大な遺稿のリストは長男の地井重夢がまとめた。純一、神奈川大学の大学院生と作業し、遺稿集は今年ようやく完成した。作業のさなか2011年3月には東日本大震災

漁師の住む村究めた男

◇40年にわたる漁村集落研究者の遺稿まとめる◇

重村 力



伊豆大島が大火に見舞われた時、吉阪は12日うちに復興案をスケッチに描き、翌日焼跡で人々に呼びかけた。「みなさん、希望を失ってはいけません。すばらしい町をこれからつくりましょう」

京都府与謝郡伊根町の舟屋集落



漁師はなぜ、海を向いて住むのか。1960年代半ばから40年以上、日本の漁村集落の構造を研究しつつ、そんな根本的な問いかけをしてきた学者がいた。広島大学など各地で教鞭をとった地井昭夫である。早稲田大学で建築家の吉阪隆正に師事した地井は、北海道から沖縄まで小さな漁村を訪ね歩いて膨大な資料と文章を残し

95年の阪神大震災について論じているからだ。私たちの師である吉阪も「行動する建築家」だった。65年1月11日から12日にかけて、東京都の史を掘り起こし、町並み

増えているなど感じ取ることもできるし、沖合を行き来する船の様子も分かる。「情報の宝庫」だ。多くの漁村では海から遠い場合でも漁師の家は海を向いて立つ。海辺の集落を調べていくうちに、地井はそれが海を分かち合う暮らしに合った形であり、海からの恵みを迎えて感謝する人々の意識や信仰心の現れだと考えるようになる。

現代社会へのヒント 海女の生活を調べながら、地井は新しい家族のあり方も示唆した。能登の海女は季節ごとに住まわたり家族の同居の組み合わせを変え、生活の互助

交遊抄

「中国はこれからどうなるだろう」。国日本大使館に駐在して活動を終えた国分さんから手紙が届いた。滞在中、国分さんはランニングやゴルフで満員バスに揺られて北京の隅々を探索。い

私の履歴書

根岸 英一

らいたい。「自信がある」「向いている」という分野を見つけて研さんに励んでもらいたい。若い世代への要望だ。私自身、失敗にくじけず高

増えているなど感じ取ることもできるし、沖合を行き来する船の様子も分かる。「情報の宝庫」だ。多くの漁村では海から遠い場合でも漁師の家は海を向いて立つ。海辺の集落を調べていくうちに、地井はそれが海を分かち合う暮らしに合った形であり、海からの恵みを迎えて感謝する人々の意識や信仰心の現れだと考えるようになる。

根岸 英一

根岸 英一

らいたい。「自信がある」「向いている」という分野を見つけて研さんに励んでもらいたい。若い世代への要望だ。私自身、失敗にくじけず高

増えているなど感じ取ることもできるし、沖合を行き来する船の様子も分かる。「情報の宝庫」だ。多くの漁村では海から遠い場合でも漁師の家は海を向いて立つ。海辺の集落を調べていくうちに、地井はそれが海を分かち合う暮らしに合った形であり、海からの恵みを迎えて感謝する人々の意識や信仰心の現れだと考えるようになる。